

第 1 章

荒川区の景観特性

- 1 荒川区の市街地の成り立ち
- 2 荒川区の景観の現況
- 3 地域別の景観特性



隅田川と汐入地区

第1章 荒川区の景観特性

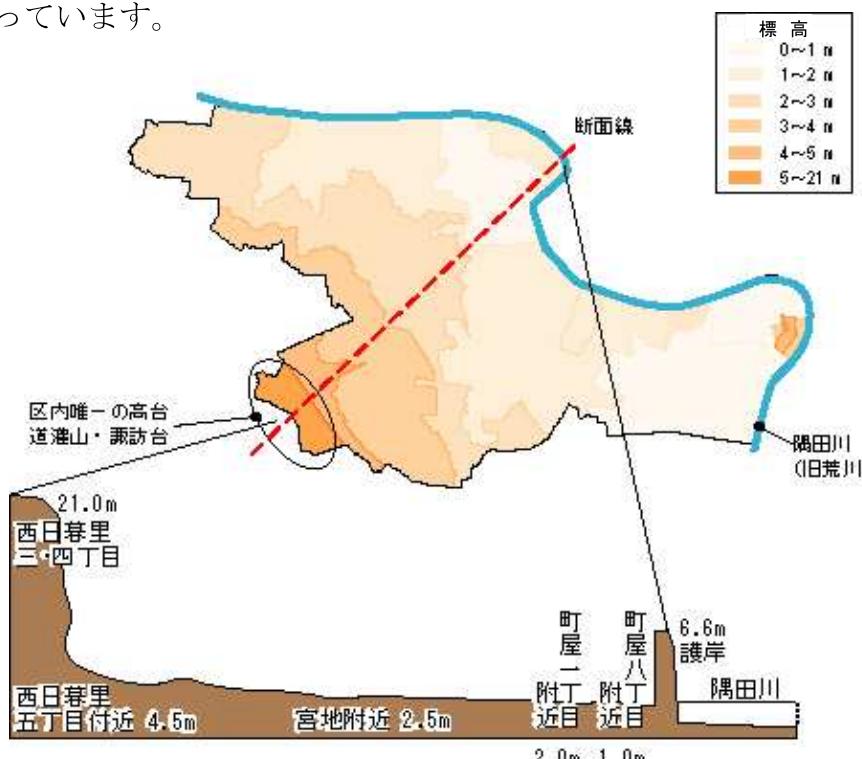
本章では、区の景観の成り立ちと現況を把握し、景観の骨格や地域ごとの特徴を捉え、荒川区の景観特性を以下に示します。

1 荒川区の市街地の成り立ち

1.1 荒川区の地形

荒川区は、区界である隅田川（旧荒川）の南側に位置します。その大部分は、起伏の少ない平地で、隅田川に向かって緩やかに傾斜しています。

荒川区南西部の西日暮里三丁目から四丁目にかけて、上野台地の一部を形成する台地となっています。



荒川区の地形(国土地理院1万分の1地形図及び「荒川区環境指標集」を元に作成)

1.2 市街地の変遷

現在の区の景観特性を捉える上で、重要と考えられる市街地の変遷を江戸時代から現代までの歴史を追って整理します。

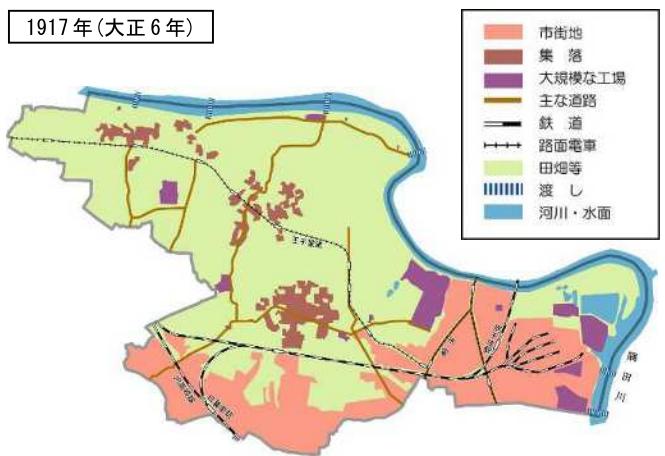
① 江戸期

- 1594年(文禄3年)に徳川家康が千住大橋を架橋。千住下宿が現在の旧日光道中(コツ通り)沿いに形成され、宿場町として栄えました。
- ほとんどの地域は江戸の近郊農村であり、一方、現在の日暮里や南千住等には、武家屋敷が形成されました。

② 明治～大正期

- 官営千住製絨所を始めとした大規模な工場が相次いで建設され、その後の鉄道開通により、日暮里駅や南千住駅周辺の市街化が進行しました。
- 王子電車や市電の路面電車が運行され、東京市内各所へのアクセスが向上しました。

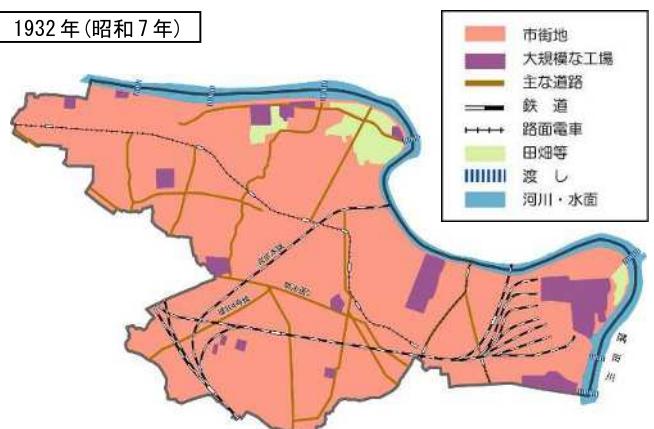
1917年(大正6年)



③ 震災後～戦前期

- 1923年(大正12年)の関東大震災後、東京市内からの人口流入が進み、農村の面影を残していた尾久や三河島等を含めた区全体の急速な市街化が進行しました。

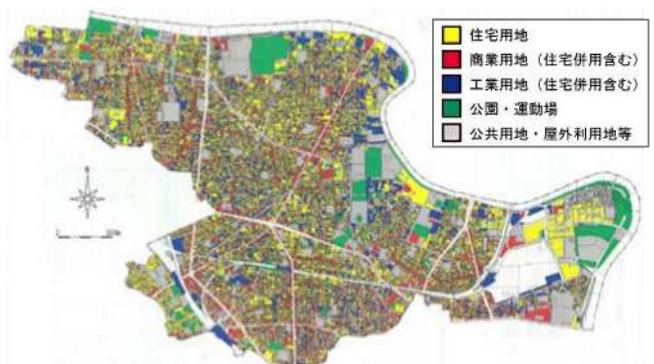
1932年(昭和7年)



④ 戦後～現代

- 日光街道(旧下谷通り)や明治通り、尾竹橋通り、尾久橋通りなどの幹線道路や生活道路が整備されるとともに、JR(旧日本国有鉄道)、京成電鉄以外にも、東京メトロ(千代田線・日比谷線)、日暮里・舎人ライナーなどの公共交通が整備されました。
- 鉛筆、自転車、家具等の様々な町工場が集積するとともに、工場で働く人々の生活を支える多くの商店街が形成され、区内全域に住宅と商店、工場が共存する市街地が広がりました。
- 近年は、商店や工場が減少する一方、マンション建設等により住宅が増加しています。

現代(平成18年)



工場跡地等に増加しつつある集合住宅

2 荒川区の景観の現況

本節では、都市の骨格である地形、河川、鉄道を始め、道路や市街地の形成状況から、荒川区の景観要素と特徴を示します。

区のシンボルである都電荒川線が東西に走り、都市の発展とともに各種鉄道が区外へ伸びました。北側から東側には隅田川が流れ、江戸、明治までは田畠が広がっていましたが、関東大震災後に急速に市街化が進み、住・工・商が共存した市街地が形成されました。荒川区の南西側には日暮里台地があり、台地上には寺社等の歴史・文化資源が点在するとともに、今でも筑波山や富士山を望むことができます。このように区の景観の骨格は、都電と隅田川と台地の三つの景観要素から形成されています。

道路網は南北に走る日光街道と東西に走る明治通りを幹線軸として、尾久橋通りや尾竹橋通り等の地域・地区幹線道路が整備されています。隅田川沿いには四つの大規模な公園がそれぞれ隣接し、区の主要なまとまりのある緑を構成しています。また、市街地にも軒先の植栽や植木鉢があり、身近な緑が多く存在しています。区の市街地は、住・工・商が混在していることから、その用途地域は約六割が準工業地域となっており、低層建築物の街並みとあいまって下町らしい親しみのある空間が形成されているのが特徴です。



景観要素

1 鉄道	都電荒川線 その他の鉄道		4 道路	主要幹線道路 地域・地区幹線道路 街道(旧街道)		7 商業系市街地	駅周辺商業地 沿道商業地	
2 川	隅田川		5 公園 緑地	大規模公園・緑地 大規模公園・緑地(計画)		その他 歴史・文化資源	寺 神社 文化財・名所旧跡等	
3 台地	崖 線 坂 道		6 住居系 市街地	低中層市街地 中高層市街地				

2.1 骨格となる景観要素

荒川区を特徴付ける景観要素として、最も基本となるものは「鉄道」「川」「台地」があげられます。

以下にそれらの景観的な特徴を示します。

① 都電荒川線

荒川区を象徴する都電荒川線は、沿線のバラの植栽が特徴的で利用者の目を楽しませています。

このため、都電の車窓や沿線からの眺めに配慮するために、建築物のスカイライン、外壁や屋根の色彩、屋外広告物等の規制誘導が必要です。



② 隅田川とその沿川

隅田川の緑と土の堤防(スーパー堤防)化が進み、川と街の一体化が実現しています。

隅田川沿いには大規模な公園・あらかわ遊園が隣接しており、広々とした空間で利用者が触れ合い集う場として活用されています。

今後も隅田川沿いのビューポイント作り等により、川と街が一体となるような景観形成が望まれます。



③ 日暮里台地

江戸名所の面影を残す日暮里台地は、歴史的な面影を残す諏方神社や本行寺などの寺社が点在し、現在でも寺町として知られ多くの人が訪れています。

今後も歴史的建造物の多い寺町としてのたたずまいを生かした景観形成が望まれます。

また、江戸時代の浮世絵に見られるように、日暮里台地の高台や坂道からの富士山等の眺望を生かしたまちづくりが望されます。



2.2 主な公共空間：幹線道路と大規模公園

荒川区のインフラ施設である道路、公園・緑地は、地域の歴史や自然などの特徴を示しており、重要な景観要素となっています。

① 旧日光道中とにぎわいの幹線道路

主要な幹線道路には、歩道の修景や電線類の地中化等により、街並みと調和した道路の整備が進められています。

今後も、地域性を生かした歩道やガードレール、街路灯の景観整備が望まれます。



② 隅田川沿い等の大規模公園・緑地

都立尾久の原公園や汐入公園、区立あらかわ遊園や荒川自然公園等の大規模な公園・緑地が隅田川に隣接しており、特にあらかわ遊園ではスポーツ施設と一緒に利用されており、家族ぐるみのレジャー拠点としてにぎわっています。

これらの公園・緑地は、スーパー堤防化により眺望景観も飛躍的に改善されています。今後も更なる景観整備が望されます。

一方、日暮里台地にある緑豊かな西日暮里公園については、緑や眺望、歴史等を生かした公園の再生に取り組んでいます。



2.3 基盤となる景観要素

荒川区の大部分を占める住居系市街地及び主要駅周辺と幹線道路沿道の商業系市街地は、荒川区の景観の基盤を形成しています。

① 住居系市街地

(1) 低中層市街地

荒川区においては、数多くあった町工場や商店は減り、マンション等の中高層建築物が増えつつありますが、人々のコミュニティが息づく、下町らしい親しみのある低中層の市街地が残されています。

今後も市街地を縫う生活道路とその沿道は、防災上必要な道路幅員を確保した上で、下町らしい暮らしが息づく景観形成が必要です。

また、古くから地域の目印となっている街路樹や庭木などは、建て替えや開発の場合でも大切に残し、塀なども極力生垣とするなど、潤いを感じる配慮が必要です。



(2) 中高層市街地

再開発事業により整備された汐入地区には、中高層の集合住宅等が建ち並ぶ市街地景観が形成されています。

今後も近隣や周辺の景観への影響が大きい工場跡地等の大規模な開発等においては、地域の景観特性に応じた、中高層建築物に対する適正な景観誘導が望まれ、緑豊かでゆとりのある良好な景観を保全することが大切です。



② 商業系市街地

(1) 駅周辺商業地

交通結節点となる駅周辺を中心に、にぎわいや風格のある景観が形成されています。駅前広場などからの眺めに配慮し、新しさの中にも下町の息吹を感じる街並み景観の形成が必要です。

(2) 沿道商業地

幹線道路の沿道や商店街には、商店と住宅、業務施設が共存する街並みが形成されています。

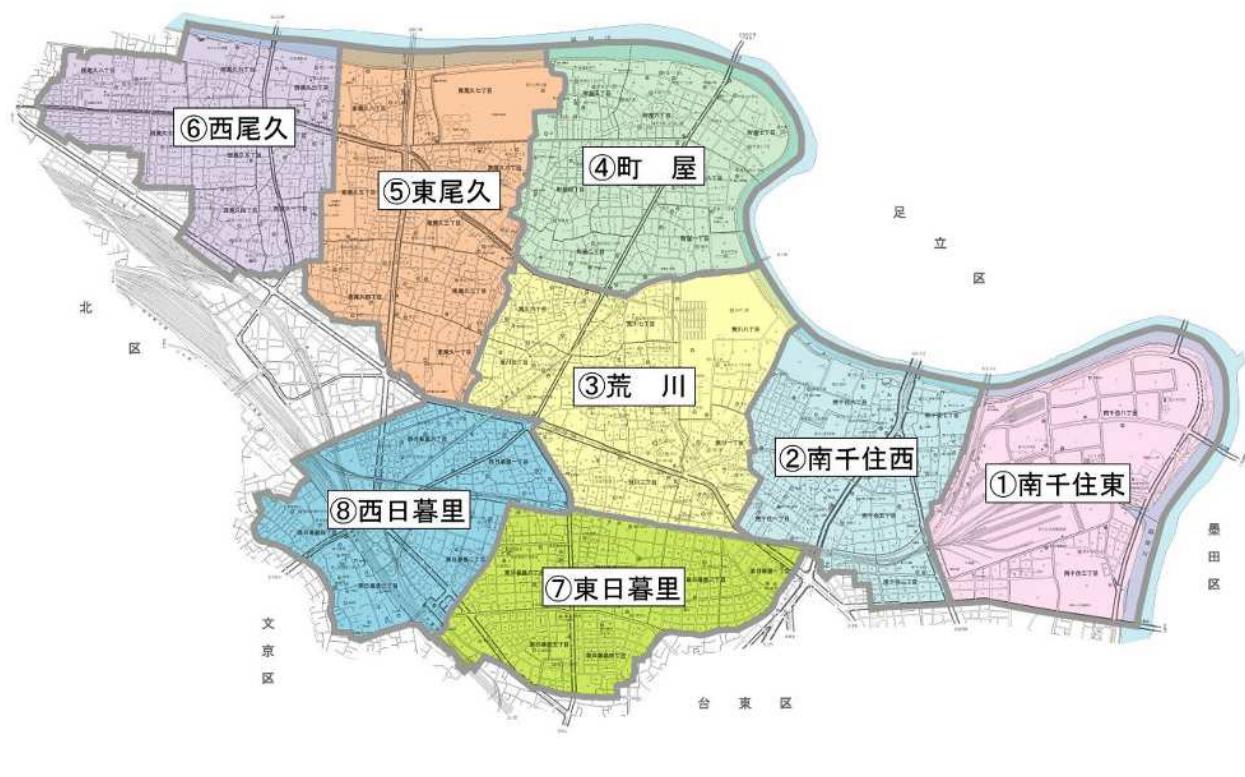
地域の人々が行き交い、コミュニティが豊かな下町的雰囲気の保全や、にぎわいの連続性に配慮した街並み景観の形成が必要です。



3 地域別の景観特性

荒川区都市計画マスタープランなどの計画において、荒川区全域は、行政区域から八つの基礎的な生活地域に分けられています。

区民や事業者等が身近な地域へ目を向け、地域の景観に理解を深めるとともに、景観まちづくり活動や事業の際に参考となるように、八つの地域ごとに景観特性を示します。



八つの地域

①南千住東地域

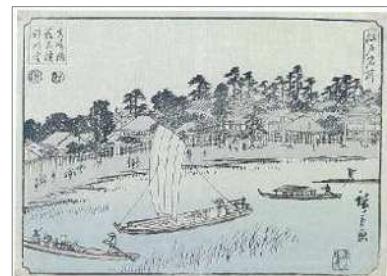
成り立ち

- ◆ 石浜神社や渡し跡など古くから隅田川とのつながりの強い地域でした。
- ◆ 明治期には、水運に恵まれていたことから紡績工場群が建設されました。
- ◆ 明治 29 年に JR(旧日本国有鉄道) 常磐線の南千住駅が開設されて以降、東京メトロ(旧 営団地下鉄)日比谷線、つくばエクスプレスなどの開通により交通・商業拠点としての役割が増大しています。
- ◆ 昭和 30 年代以降に大規模工場が転出するとともに、市街地再開発事業等により都立汐入公園や汐入地区に代表される公園・住宅系の土地利用が増加しました。

景観の特徴

◇新しい川の手を象徴するダイナミックな景観

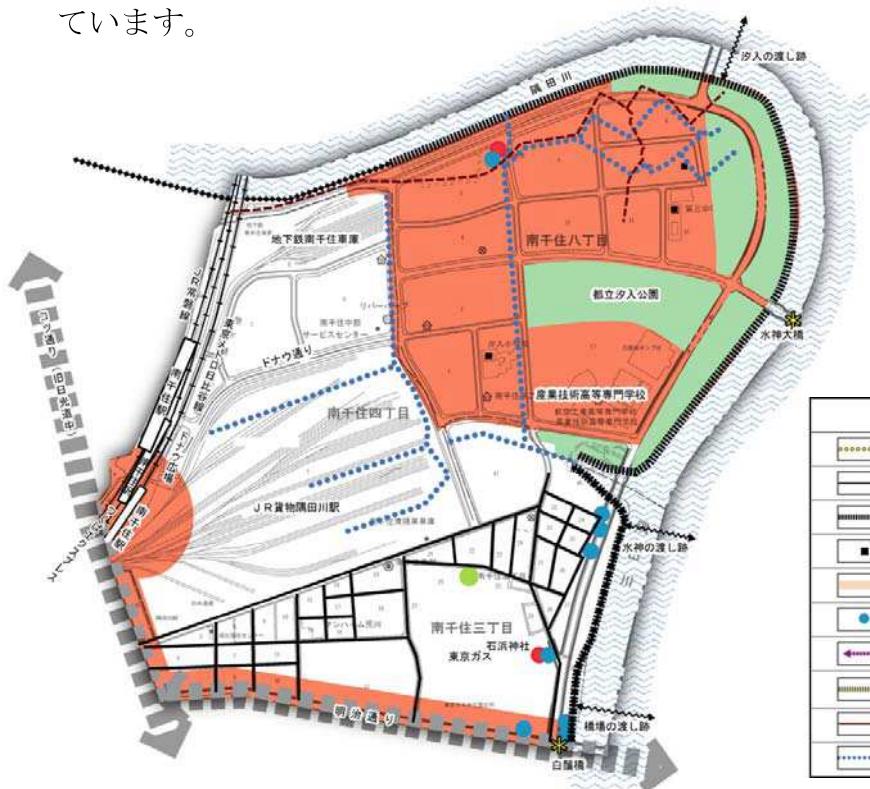
- ・ 汐入地区には中高層住宅が立ち並び、隅田川のスーパー堤防と汐入公園が一体となった良好な景観が形成されています。
- ・ 鉄道操車場や東京ガス千住工場は、地域の特徴的な景観となっています。
- ・ 南千住駅周辺は、市街地再開発事業等により、新たにぎわいのある街並みが形成されています。
- ・ ドナウ広場や南千住の跨線橋からは、視線が遠くまで通るダイナミックな眺望が広がります。
- ・ ドナウ通りは、緑豊かで統一感のある街並み景観が形成されています。
- ・ 南千住駅周辺などの高架下は、立体的な空間が形成されています。



江戸名所真先稻荷
石浜神明宮



隅田川と汐入公園



凡例	
親しみの散歩道	主な道路
区画道路(区画整理地区)	カミソリ堤防
スーパー堤防	大規模公園
■ 小中学校	公園・緑地計画地
商店街	中高層市街地
● 文化財・名所	寺社
坂道	公園・緑地
崖線	渡し跡
里道(明治9年制定)	古道(明治13年地図による)
水路跡	

②南千住西地域

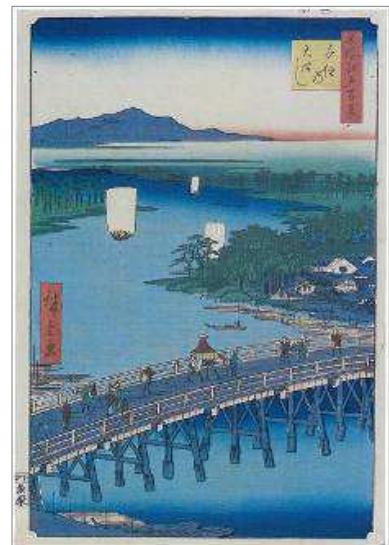
成り立ち

- ◇ 江戸時代には、日光道中の宿場町として区内で最も早く栄えました。
- ◇ 明治時代には官営千住製絨所などの工場が次々に建設され、常磐線南千住駅や都電(旧市電)が開通しました。
- ◇ 昭和30年代に東京メトロ(旧営団地下鉄)日比谷線が開通するとともに、荒川総合スポーツセンター(旧東京スタジアム)が建設され、野球観戦の人々でにぎわいました。
- ◇ 近年では千住間道(補助107号線)が拡幅整備されるとともに、南千住駅周辺は交通結節点となり、にぎわいを見せてています。

景観の特徴

◇江戸・昭和の歴史が重なる街に下町人情が息づく景観

- ・ 日光街道とコツ通り(旧日光道中)の中高層建築物の街並みの中に寺社等の歴史的景観資源が残されています。
- ・ 素盞雄神社のイチョウや荒川総合スポーツセンター周辺の桜並木は、地域の景観資源として親しまれています。
- ・ コツ通り(旧日光道中)は、商店街の活性化と合わせ、街道の歴史を生かした街並み景観づくりが進められています。
- ・ 都電荒川線の終着駅である三ノ輪橋停留場周辺は、昭和の面影を残す下町らしい景観が形成されています。
- ・ ジョイフル三ノ輪は、地域の暮らしを支える商店街として活気とにぎわいある景観を形成しています。
- ・ 歴史的な建造物である千住大橋は、地域のランドマークになっています。
- ・ 千住製絨所跡地の煉瓦堀は、風合いを増して地域の景観に溶け込んでいます。



名所江戸百景 千住の大橋



素盞雄神社



ジョイフル三ノ輪

③荒川地域

成り立ち

- ◆ 江戸時代は、江戸のまちに野菜を供給する農村地帯でした。
 - ◆ 明治以降は水運を生かした工場が増加しました。
 - ◆ 大正11年3月に日本で最初の下水処理施設として三河島水再生センター(旧三河島汚水処分場)が設立されました。
 - ◆ 関東大震災後に東京市内(当時)からの人口流入により、急速に市街化が進みました。
 - ◆ 昭和6年に京成電鉄の京成町屋駅が開設され、昭和44年に東京メトロ(旧営団地下鉄)千代田線の町屋駅が開設しています。

景観の特徴

◇行政・文化機能や大規模公園等の生活拠点と身近な商店や産業が調和する景観

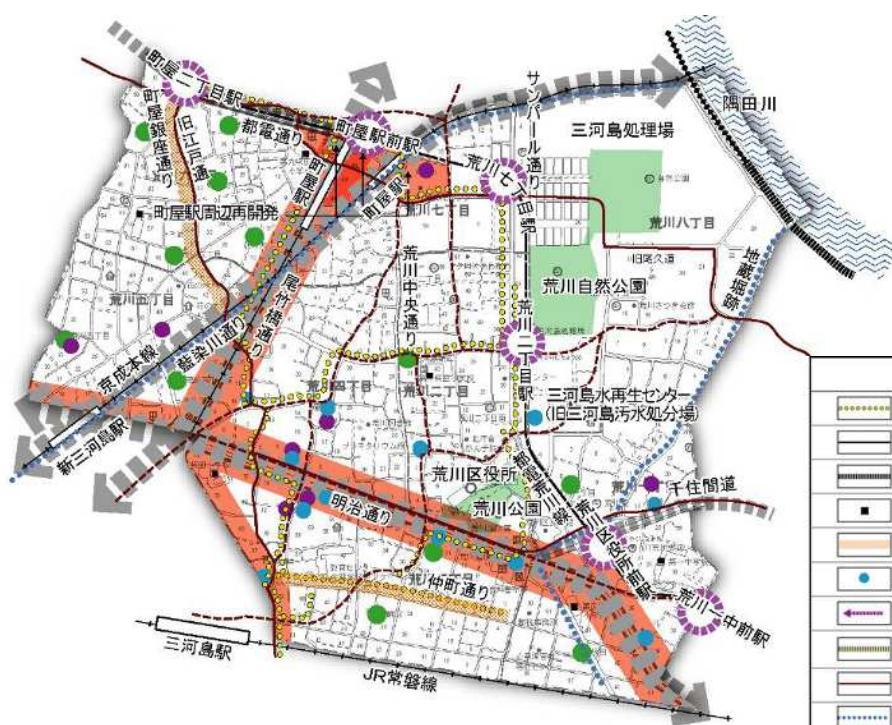
- 明治通り沿いは、荒川区役所などの行政関連施設が集積し、落ち着いた街並み景観が形成されています。
 - 荒川区役所前の荒川公園一帯は、区民の憩いの場となるとともに、緑豊かな景観を形成しています。
 - 尾竹橋通りや町屋駅周辺から一歩街区に入ると生活感あふれる下町的な景観が形成されています。
 - 三河島水再生センター内の赤レンガ造りの唧筒場は、国指定の重要文化財として風格のある景観を形成しています。^{ポンプ}
 - 町屋駅周辺は、再開発ビルがランドマークとなるとともに、商店街は下町のにぎわいのある景観を形成しています。
 - 京成本線沿いの藍染川通りは、かつての藍染川の線形を残しています。



町屋駅前



荒川自然公園



例	凡
主な道路	親しみの散歩道
カミソリ堤防	区画道路(区画整地地)
大規模公園	スーパー堤防
公園・緑地計画地	■ 小中学校
中高層市街地	商店街
寺 社	文化財・名所
公園・緑地	坂 道
渡し跡	崖 線
古道(明治13年地図による)	里道(明治9年制定)
水路跡	*****

④町屋地域

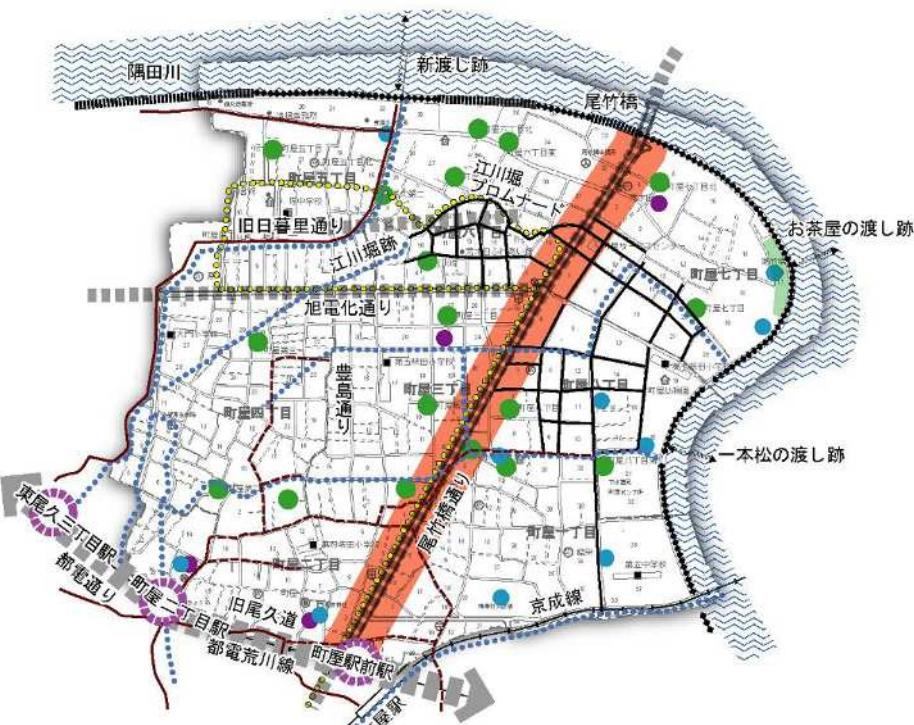
成り立ち

- ◇ 江戸時代は、町屋村を中心とした農村地帯でした。
- ◇ 明治時代以降は、隅田川（旧荒川）沿いを中心に農業から工業地帯へと変化しました。
- ◇ 関東大震災後は、東京市内（当時）からの人口流入で急速に市街化が進みました。
- ◇ 昭和6年に京成電鉄の京成町屋駅、昭和44年に東京メトロ（旧営団地下鉄）千代田線の町屋駅が開設し、交通結節点としてにぎわいのある街が形成されました。

景観の特徴

◇町屋駅を中心とした商業・交通拠点と住・工共存の街並みが広がり、にぎわいと潤いを併せ持つ景観

- 町屋駅周辺は生活・文化関連施設が集積し、にぎわいのある景観が形成されています。
- 町屋一丁目から四丁目付近には、低中層の住宅と町工場が共存する下町的な景観が残されています。
- 尾竹橋通りは、商店が連続するにぎわいのある景観が形成されていますが、置き看板やのぼり旗、商品の陳列などが目立つ景観になっています。
- 隅田川沿いの工場は、マンションなどの中高層住宅に変わり、新しい街並み景観が形成されつつあります。
- 町屋斎場（火葬場）周辺は、セットバックや接道緑化により、良好な街路景観になっています。
- 江川堀プロムナードは、掘りの線形を生かした緑の散歩道として整備され、潤いのある景観が形成されています。



町屋駅付近の街並み



江川堀プロムナード

⑤東尾久地域

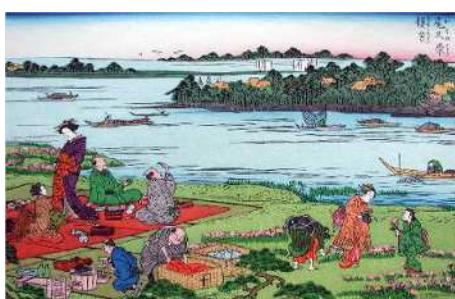
成り立ち

- ◇ 江戸時代は尾久村と下尾久村と呼ばれており、田畠の広がる農村地帯でした。当時の尾久の原公園付近は、桜草の名所として知られていました。
- ◇ 明治時代には都心部からの工場等の移転が進み、関東大震災後は東京市内(当時)からの人口流入があり、住商工の混在する市街化が進みました。
- ◇ 昭和9年には尾久橋通り(放射11号線)が開通、昭和43年には尾久橋が架橋され交通機能が拡充しました。
- ◇ 近年は補助306号線や、平成20年には日暮里・舎人ライナーの開通がありました。

景観の特徴

◇隅田川のスーパー堤防と大規模公園が一体となった水と緑の憩いの景観

- 尾久の原公園周辺はスーパー堤防化が進み、隅田川と一体化した広がりのある景観が形成されています。また首都大学東京周辺から尾久の原公園までは、豊かな緑が連続しています。
- 地域の中央に日暮里・舎人ライナーが開通し、新たな景観が形成されています。
- 地域一帯は低中層住宅が占めているとともに、東西南北に商店街が長く連続したにぎわいのある景観が形成されています。
- かつての水路跡や里道の線形が残された街並みが特徴的です。



桜草の花摘みでにぎわう尾久の原
(出典:「江戸名所花曆」)

※摺師・松崎啓三郎氏による着色版)



日暮里・舎人ライナー



熊野前商店街

凡　例	
親しみの散歩道	主な道路
区画道路(区画整理事区)	カミソリ堤防
スーパー堤防	大規模公園
■ 小中学校	公園・緑地計画地
商店街	中高層市街地
● 文化財・名所	寺 社
坂 道	公園・緑地
崖 線	渡し跡
里道(明治9年制定)	古道(明治13年地図による)
水路跡	

⑥西尾久地域

成り立ち

- ◇ 江戸時代は上尾久村、西尾久村があり田畠の広がる農村地帯でした。
- ◇ 大正 3 年、碩運寺境内に尾久温泉が発見され、周辺は料理店や温泉旅館の建ち並ぶ行楽地、尾久三業地としてにぎわいはじめ、大正 11 年、旧レンガ工場跡地に民営あらかわ遊園が開園しました。
- ◇ 昭和 2 年に都電荒川線（旧王子電気軌道）の三ノ輪橋～飛鳥山下間での運行が開始され、昭和 4 年に JR(旧日本国有鉄道) 東北本線の尾久駅が開設されました。また、水田地域に鉛筆工場が開業するとともに、農地が減少して市街化が進行しました。

景観の特徴

◇あらかわ遊園の憩いの空間と、歴史を感じる街並みが共存した景観

- ・ あらかわ遊園は昭和 61 年度から平成 2 年度の大改造を経て、区内外の行楽のスポットとなっており、隅田川の水辺や緑地からスポーツハウス周辺、都電荒川線へと連続した潤いと憩いの景観が形成されています。
- ・ あらかわ遊園周囲の住宅地には、古くからのレンガ塀が残されており、落ち着きある住宅景観が形成されています。
- ・ さくら通り沿道は、桜並木の街路樹と建築物の接道緑化が一体となっており、緑豊かな潤いのある景観が形成されています。
- ・ 西尾久三丁目付近は、寺社が点在する歴史を感じる街並み景観が形成されています。
- ・ 西尾久七丁目付近は、整った街区に住商工が共存する市街地の景観が特徴的です。
- ・ 新旧の小台通り沿道は、地域の生活に密着した親しみのある商店街の景観が形成されています。



都電通り



さくら通り

⑦東日暮里地域

成り立ち

- ◇ 江戸時代は、江戸郊外の寺社や、武家屋敷が集まる地域となっていました。
- ◇ 明治時代から繊維産業が盛んとなり、大正末期には現在の日暮里駅前を中心に繊維問屋街が形成されました。
- ◇ 明治38年にJR(旧日本国有鉄道)の日暮里駅、常磐線の三河島駅が開設し、昭和6年には京成電鉄の日暮里駅が開設するなど、交通結節点として発展しました。
- ◇ 東京大空襲で地域の大半が焼け野原になり、戦後、地域の半分以上を占める範囲で土地区画整理事業が行われました。

景観の特徴

◇新しい市街地と、商店街や生活道路が調和した景観

- ・ 日暮里駅前の商店街は尾竹橋通りまで連続し、かつての繊維問屋街である日暮里中央通りはファッショントリートとしてぎわっています。
- ・ 住宅地は戦後の土地区画整理により整った街区が形成されており、正庭通りやカンカン森通りは、古くからの桜の街路樹により緑豊かな景観が形成されています。近年は中高層マンションが増加しています。
- ・ 三河島駅周辺は、市街地再開発事業による新しい街づくりが進められています。
- ・ 地域の人々に親しまれている日暮里公園や日暮里南公園、歴史ある音無川の線形が残された道路などが特徴的です。



日暮里中央通り

日暮里南公園

凡 例	
親しみの散歩道	主な道路
区画道路(区画整地地区)	カミソリ堤防
スーパー堤防	大規模公園
■ 小中学校	公園・緑地計画地
商店街	中高層市街地
● 文化財・名所	寺 社
坂 道	公園・緑地
崖 線	渡し跡
里道(明治9年制定)	古道(明治13年地図による)
*****	水路跡

⑧西日暮里地域

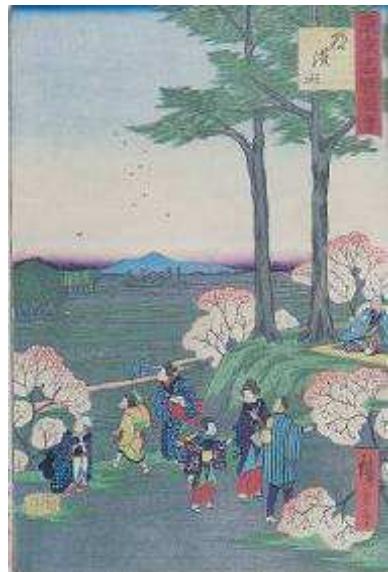
成り立ち

- ◆ 縄文・弥生時代から人々の生活の場となり、江戸時代には「ひぐらしの里」として親しまれ、風光明媚な景勝地となっていました。
- ◆ 東京大空襲後の露店から発展した駄菓子屋問屋街が、昭和 20 から 50 年代ににぎわいました。
- ◆ 明治 38 年から昭和 44 年にかけて西日暮里駅等の鉄道駅の開設が相次ぎ、平成 20 年に日暮里・舎人ライナーが開通しました。
- ◆ 近年は日暮里駅を中心に市街地再開発事業が進行し、商業・業務機能が集積する街となっています。

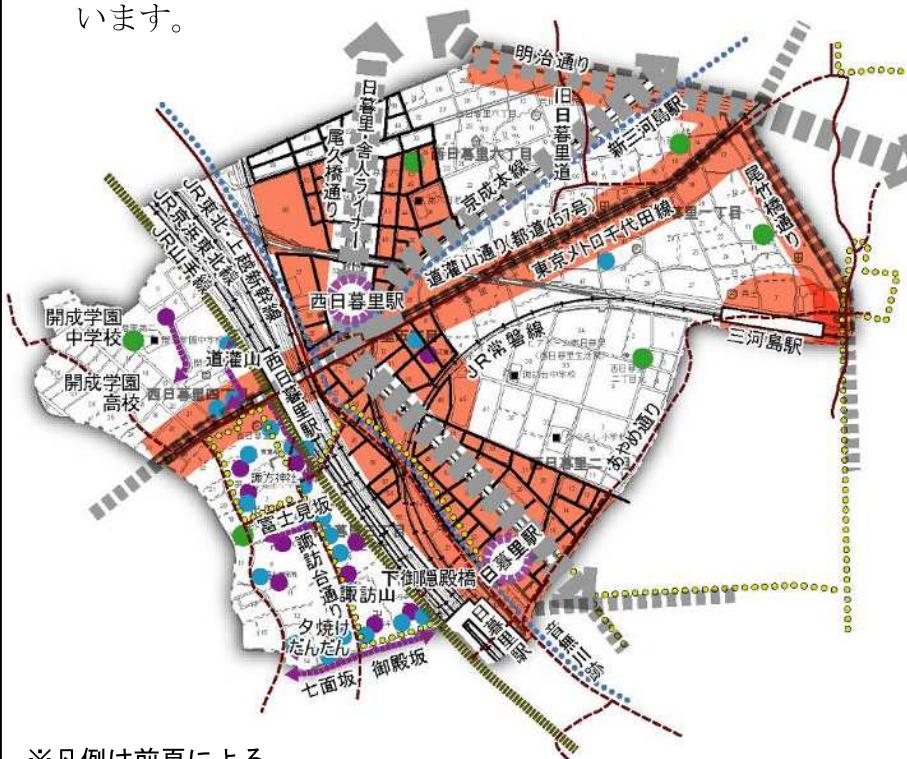
景観の特徴

◇台地の歴史的資源と鉄道・道路や市街地開発とが共存した景観

- 「ひぐらしの里」として親しまれた台地には、諏方神社を始め寺社が点在し、歴史的な面影を残す寺町の景観が形成されています。
- 富士見坂や夕焼けだんだんからの眺望や、下御隱殿橋からの鉄道や緑豊かな崖線の眺めなど、特徴的な眺望点があります。
- 日暮里駅北側から西日暮里駅までの一帯は、日暮里・舎人ライナーの高架や中高層建築物により、立体的に新しい都市拠点の景観が形成されています。
- 日暮里駅から道灌山通り、尾竹橋通りは商店街が連続し、にぎわいのある景観が形成されています。三河島駅周辺は、市街地再開発事業による新しい街づくりが進められています。



ひぐらしの里として
親しまれた日暮里
(東京名勝図会 道灌山)



西日暮里駅前



向陵稻荷坂

※凡例は前頁による